

農村工学技術研修の開催

技術移転部技術研修室

1. 農村工学技術研修（土木地質）の実施

6月15日（月）～19日（金）の期間、参加人数20名（国：4名、県：13名、土地連3名）で実施しました。

研修内容は、地質調査の基本、土木地質計測、軟弱地盤対策、地すべり対策などの座学とボーリング調査、地下水調査、物理探査などの現地実習及び産業技術総合研究所地質標本館への現地見学を行いました。

研修実施後の研修生からの意見として、「研修受講前は、発注者として地質調査を委託する際に、その業務について完璧には理解できず、基準書に載っているからという理由にとどまっていたが、今回の研修を通して具体的な調査の方法やその目的をも学ぶことができ、なぜ基準書でその方法が指定されているのか、まできを考える力を身につけることができた。」「実務でも活用できるよう関連サイトのURLが示され、また、その使用方法についてもレクチャーがあり大変ためになった。講師に行政経験があり、NN事業の発注者の立場を理解しての講義であったためか、内容を飲み込み易かった。地質リスクを意識した、設計、施工、資料の取扱いを心がけたい。」等がありました。



「土木地質」研修 実習状況（スクリューウェイト貫入試験、現場密度試験）



「土木地質」研修 実習状況（物理探査：弾性波、レーダ）



「土木地質」研修 実習状況（産業技術総合研究所地質標本館）

2. 農村工学専門技術研修（ダム機能保全Ⅱ）の実施

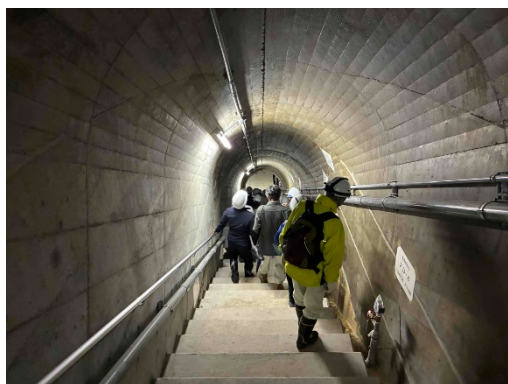
6月29日（月）～7月3日（金）の期間、参加人数10名（国：6名、県：4名）で実施しました。

研修内容は、堤体の安全管理、耐震性照査、対策工法等に関する講義および機能診断に関する現地実習等を行いました。

現地実習は茨城県の御前山ダム（関東農政局那珂川沿岸農業水利事業所）および栃木県の菅又調整池（芳賀台地土地改良区）で機能診断のポイント等を学びました。御前山ダムの管理所では事業所の職員に施設概要を説明いただきました。また、両ダムの監査廊ではダム特有の勾配がきつく段数も多い階段を上り下りし、点検にかかる苦労の一端を体験しました。



「ダム機能保全Ⅱ」研修 御前山ダム（ダム管理所、漏水観測施設）



「ダム機能保全Ⅱ」研修 菅又調整池（監査廊、下流側堤体）